

CASBEE 広島 2016年版

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

株式会社日本製鋼所広島製作所 第2機械工場建設工事

配 慮 項 目			評価点	重み係数	内 訳					
■1.「地球温暖化対策」の推進										
1.1 建物の熱負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 特になし	0.0	0.00	Q1	室内環境	2	温熱環境	2.1	室温制御	2	外皮性能
	0.0	0.00	LRI	エネルギー	1	建物外皮の熱負荷抑制				
小計		0.0	0.00							
1.2 自然エネルギーの利用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 特になし	3.0	1.00	LRI	エネルギー	2	自然エネルギー利用				
小計		3.0	0.07							
1.3 設備システムの高効率化										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 LED照明設備など高効率設備により省エネルギー性に配慮している	5.0	1.00	LRI	エネルギー	3	設備システムの高効率化				
小計		5.0	0.34							
1.4 設備システムの効率的運用										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 特になし	3.0	0.50	LRI	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.1	モニタリング
	3.0	0.50	LRI	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅以外の評価	4.2	運用管理体制
	0.0	0.00	LRI	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.1	モニタリング
	0.0	0.00	LRI	エネルギー	4	効率的運用		集合住宅の評価	4.2	運用管理体制
小計		3.0	0.14							
1.5 資源・マテリアル対策										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 節水コマなどに加えて、省水型器具などを用いている	4.0	0.10	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.1	節水		
	3.0	0.11	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	1	雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2	資源・マテリアル	1	水資源保護	1.2	雨水利用・雑排水等の利用	2	雑排水等利用システム導入の有無
	3.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.1	材料使用量の削減		
	3.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.2	既存建築躯体等の継続使用		
	5.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		
	4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		
	2.0	0.08	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.5	持続可能な森林から産出された木材		
4.0	0.15	LR2	資源・マテリアル	2	非再生性資源の使用量削減	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み			
小計		3.6	0.32							
1.6 ライフサイクルCO2排出率										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください 消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮している	5.0	1.00	LR2	敷地外環境	1	地球温暖化への配慮				
小計		5.0	0.14							
1.「地球温暖化対策」の推進の評価			4.1	0.56						
■2.「ヒートアイランド対策」の推進										
2.1 温熱環境の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 特になし	2.0	0.56	Q3	室外環境(敷地内)	1	生物環境の保全と創出				
	2.0	0.28	Q3	室外環境(敷地内)	3	地域性・アメニティへの配慮	3.2	敷地内温熱環境の向上		
	3.0	0.16	LR2	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.1	温熱環境悪化の改善		
小計		2.2	0.98							
2.2 交通負荷抑制										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 特になし	3.0	1.00	LR3	敷地外環境	2	地域環境への配慮	2.3	地域インフラへの負荷抑制	3	交通負荷抑制
小計		3.0	0.02							
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価			2.2	0.24						
■3.「長寿命化対策」の推進										
3.1 耐用性の向上										
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。 配管に長寿命材を採用	3.0	0.50	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	1	耐震性(建物のこわれにくさ)
	3.0	0.13	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.1	耐震・免震・制震・制振	2	免震・制震・制振性能
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	1	躯体材料の耐用年数
	3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	3.0	0.04	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	4	空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	5	空調・給排水配管の更新必要間隔
3.0	0.08	Q2	サービス性能	2	耐用性・信頼性	2.2	部品・部材の耐用年数	6	主要設備機器の更新必要間隔	
小計		3.2	0.67							
3.2 設備の更新性										
(コメント) ※設計の計画上添段に配慮した事項を記載してください。 ケーブルラックを利用する事で、構造部材だけでなく、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕が出来る	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	1	空調配管の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	2	給排水管の更新性
	5.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	3	電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	4	通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	5	設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2	サービス性能	3	対応性・更新性	3.3	設備の更新性	6	バックアップスペースの確保
小計		3.2	0.33							
3.「長寿命化対策」の推進の評価			3.2	0.20						
■重点項目の総平均(上記3項目)			3.5							